

持続可能な「ふくし社会」を創る ふくし・マイスター News

ふつうのくらしのしあわせをつくりだす 「ふくし・マイスター」を目指そう!

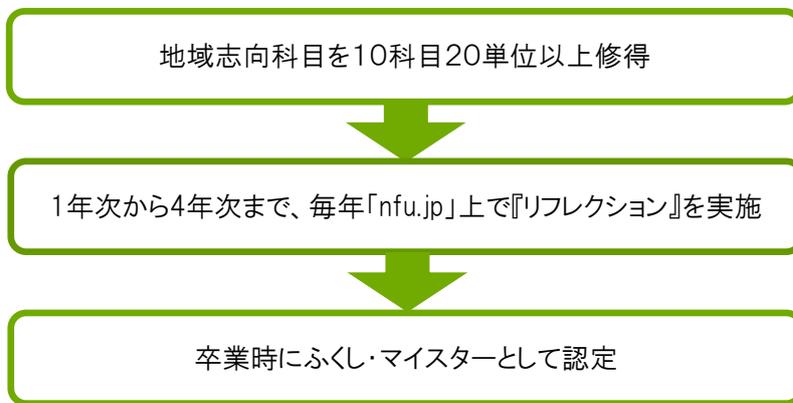
◆ふくし・マイスターってどんな人?

「ふくし」とは、“ふつうのくらしのしあわせ”を意味します。
ところが、現在の地域社会には、人口が減ったり、少子高齢化の中でいろいろな問題が生じています。
これからのふくしの仕事や地域社会では、地域の問題を解決していくために、様々な人々と協力したり、地域に働きかけていく必要があります。
こうした地域の問題に対して、きちんと分析して、解決の道筋を立て、みんなで解決していくことができるような力をつけた人を「ふくし・マイスター」といいます。



◆ふくし・マイスター認定までのプロセス

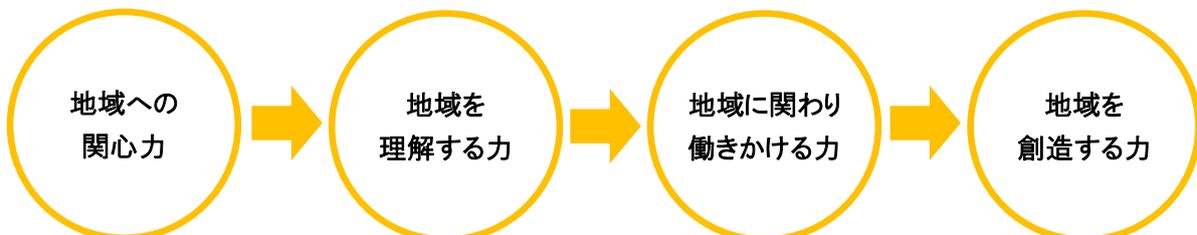
「ふくし・マイスター」になるためには、地域に関わる学修(地域志向科目)を、①10科目20単位以上修得し、②学びの振り返り(リフレクション I ~ IV)ができた学生に卒業時に「ふくし・マイスター」の修了証を授与します。



卒業時にふくし・マイスター修了証が授与されます

◆ふくし・マイスターに期待すること

「ふくし・マイスター」には、「市民力」「発見力」「率先力」「解決力」をいう4つの力が求められます。これは、福祉の専門職だけでなく、地域に暮らす一市民として、あらゆる職業に携わるうえでも、広い意味の「ふくし」の実現に貢献するために必要とされる力です。地域社会を持続可能にするためには、暮らしや社会の課題を人任せにせず、自ら参加して解決する力が必要とされています。これからの社会を担う学生たちには、自ら仕事を見つけだし積極的に役割を担い、複雑な問題を解決する力がより強く求められています。



社会福祉学部

春季セミナーで知多半島の各地でフィールドワークを開催



亀崎地区を案内するのは、本学の地(知)のマイスターでもあるNPO法人亀崎まちおこしの会 石川正喜さん

5月13、14日に社会福祉学部の1年生全員が参加する合宿型研修の春季セミナーが行われました。

1日目は、各ゼミに分かれ、知多半島のフィールドワークを行いました。事前学習では、学んだ地域を観る視点を活かして、地域を知り、地域に触れて、地域を学ぶ実践を行いました。

知多半島の多彩なフィールドワークコースは地域連携コーディネータと教職員で企画。半田市8コース、知多市3コース、武豊町3コース、常滑市2コース、東海市1コース、東浦町1コース、阿久比町1コースの計19コースで行われました。

※春季セミナーは、1泊2日の宿泊型セミナーで、毎年行われています。導入教育として「読む」、「書く」、「話す」学習の基礎リテラシーを育み、仲間づくりなど複数の目的のため、社会福祉学部では1年生が19クラスに分かれて研修に参加します。

子ども発達学部

大学生の防災力を高めるワークショップ



7月4日に子ども発達学部のふくしコミュニティプログラムが行われました。『大学生の防災力を高めるワークショップ「地震」と向き合うためにー』をテーマに、日本福祉大学で非常勤講師も務める防災士の下本英津子先生をゲスト講師に迎え実施されました。

[大学生×自助][大学生×共助][大学生×災害弱者]という観点から、学生が自分自身の防災力の現状把握をし、日ごろから地域で顔が見える関係性を構築しておくことが大切であることを学びました。

スポーツ科学部

美浜町ウォークラリー



4月26日にスポーツ科学部の春季セミナーが開催されました。188人の新生が24グループに分かれて、これから4年間を過ごす美浜キャンパス周辺約10kmのウォークラリーを行い、チェックポイントを巡りながら各班に与えられたミッションを協力しながら達成していきました。

当日は、真っ赤なお揃いの学部Tシャツを着て、晴天のもと元気よくスタート。地域の人たちに挨拶しながら、体育館や小学校・海水浴場や美浜町の観光スポットなどを巡り、日差しが照りつける中、チームで声を掛け合い歩く姿が見られました。

健康科学部

半田市 地域理解を深める

4月5日に健康科学部情報工学専修の新生44名が、新生セミナーでキャンパスのある半田を知ることを目的にまちを巡りました。半田赤レンガ建物では、赤煉瓦倶楽部半田の馬場理事長と宮原理事から半田赤レンガ建物の保存活動の取組や、先人たちのカプトビールの挑戦の歴史を教えてくださいました。

6月6日、13日、20日の3日間にわたり、健康科学部リハビリテーション学科の「ふくしコミュニティプログラム」が行われました。講義内容では、知多半島内の地域活動を紹介し、学生自らが我が事として地域問題を考え、問題に対し行動できるよう「わたしが住む『地域と人』を ①調べる ②知る ③関わる ④深める ⑤まとめる」という5つのステップで、3回にわたり学びを深めていきました。「地域を知る」の機会では、半田市社会福祉協議会の松本涼子さんにお越しいただき、地域福祉の事例を紹介してもらいました。



経済学部

「地域社会と共生」を通じて、東海市のまちづくりを知る



「地域社会と共生」(担当:原田忠直准教授)の講義では、東海市をフィールドとして地域社会の持つ強みと課題を知り、「将来、地域社会とどう向き合うか」を主体的に考える力を養っています。5月23日(水)の授業では遠藤秀紀准教授の企画、東海市デジタルマッププロジェクトの「太田川駅東西地区まち歩き」のフィールドワークを行いました。スマートフォン搭載の地図アプリ「Googleマップ」の独自マップ表示機能を利用してクイズラリー形式で行われました。1年生はグループに分かれ、クイズの解答を得るためにチェックポイントに向かいます。チェックポイントで出題されるクイズは、経済学部の3、4年生が考案。先輩たちは、そのポイントにて1年生の学びをサポートしました。

国際福祉開発学部

観光英語
～東海市の花産業を知る～



ゲスト講師 東海市農業センターで長年勤務されてきた蟹江正文さん

5月24日「観光英語」(担当:山口さつき先生)の講義では、東海市の花産業について学びました。東海市は洋ランの有数の生産地であることから「鉄とランの街」と呼ばれています。学生たちは、身近な東海市の産業の知識を付けながら、日本文化を英語で伝える表現を学びました。また東海市で栽培されている花を使って、「いけばな」体験をしました。学生たちは、慣れないいけばなに戸惑いながらも、完成した作品の写真を撮ったり、花の香りを楽しんだり、思い思いにできあがった作品を鑑賞していました。



看護学部

在宅における生活援助技術
と看護技術



高齢者疑似体験メガネや装具を付けて車いす介助を行う学生

5月21、22日「在宅看護論」の演習にて、在宅における生活援助技術を修得することを目的に、在宅療養生活の維持、継続のための道具と手技について理解を深め、QOLの維持、向上を図る看護技術を学びました。実際に高齢者疑似体験グッズを身につけ不自由さを体験しながら、kurasott(くらそっと)で自助具であるスプーンや箸を触ってみたり、使ってみたり体験を行いました。

ふくし・マイスター

スペシャルオリンピックス宿泊ボランティア

2018年9月22日～24日に開催される「2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知」に参加するアスリートとコーチが宿泊する美浜少年自然の家で、本学の社会福祉学部とスポーツ科学部の学生約100名がボランティアを行います。

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに継続的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会の提供を使命とし、活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質を豊かにすることを目的に活動しています。

7月12日、美浜キャンパスにて担当者を招いて説明会を行いました。全学教育センターの佐藤大介助教は、「宿泊ボランティアは、見えない部分で選手たちを支える大事な役割。地域社会の中で本学での学びを活かしてほしい」と話しました。



※地域で活躍する学生の様子は、ふくし・マイスターHPからご覧頂けます。



日本福祉大学は、「地域に根ざし、世界をみざす『ふくしの総合大学』」として、地域と連携をすることで、教育・研究・社会貢献の取り組みを展開しています。地域の拠点として、3つの「Cラボ」を設置して、地域連携を専門とするコーディネータが学生や教職員の様々な活動を支援しています。

Cラボ東海



村松愛子コーディネータ
場所：ソラト太田川 3階
窓：080-8979-7394

【「まずは、やってみよう！」】

Cラボ東海では、東海ハングアウトや鉄下駄プロジェクトなどのサポートを行ってきました。勇気をもって挑戦していくことの大切さ、頑張っていることで人との繋がりが生まれて新たな展開に発展していく姿を目の当たりにしてきました。しかしながら、一歩前には出ないと何も始まりません。人生は一度きり。学生生活はあっという間です。悩んでいるなら、まずはやってみる。必ず助けてくれる人が現れます。大丈夫！



鉄下駄プロジェクトで地域交流をする
国際福祉開発学部4年の新堀亮さん

【成長の場が地域にあります！】

半田市内で活動する学生から、こんな話を聞きました。「地域との取組みを進める中で、様々な世代と交流しながら、自分の考えをまとめたり発表することが、とても貴重な経験になっている。昔は人前で全く話すことができなかったのに、徐々に自分の考えをきちんと伝えられるようになってきた。」1年前の姿を思い出しながら、確かにすごく成長したなあと思いました。みなさんにも、学校での学びを地域で実践することで、うまく自らの成長に繋げていって欲しいと願うばかりです。



半田市社会福祉協議会主催の
PotluckCafeの企画運営に携わる学生

Cラボ半田



池脇啓太コーディネータ
場所：クラシティ 3階
窓：080-2629-4150

Cラボ美浜



廣澤節子アドバイザー
場所：美浜キャンパス
10号館2階
窓：0569-87-2430

【「はじめの一步」】

Cラボ美浜では、ゼミやサークル等が美浜町で活動・住民交流を行うサポートを行ってきました。美浜町の課題でもある、子どもの居場所づくりや空き家対策等では、学生たちの若き発想を行政や地域へ働きかけることで、地域にも刺激となっています。大学にはない学びの場が、地域にはあります。地域に出て活動して、それがどう発展していくのかを、目で見て実感してもらうことで自信となり、次へのステップに繋がればと思います。何か思いがあったらCラボへ！！



美浜緑苑夏祭りにて活動を行う
DoNabe-Netにつぶく

ふくし・マイスター

【第4回知多半島フィールドワークEXPOを開催します！】

今年で4回目を迎える「知多半島フィールドワークEXPO」は、日本福祉大学の美浜キャンパスで一年に一度開催しているイベントです。

知多半島で魅力的な活動をしている地域の方や団体と、日本福祉大学の学生・教職員との出会いと交流の場を設けることで、地域の課題解決に向けて大学の学生と地域団体との関係性構築を目的として開催しています。

何か地域と関わってみたい、視野を広げてみたい、ボランティアをしてみたいという方は、ぜひ立ち寄ってみてください。お待ちしております。

- 日時 ■ 2018年10月12日(金) 12:40~14:40
- 場所 ■ 美浜キャンパス11号館1階 コミュニティセンター

※参加団体は、9月18日にふくし・マイスターブログにて公開します。

